

上智大学言語学会 第 29 回年次大会

午後の部シンポジウム講演要旨

タイトル：Merge-based Case Valuation in Japanese

講師： 辻子 美保子

要旨：

本講演では、一致(Agree)による格素性付値のみならず、併合(Merge)に基づく格素性付値も人間言語において利用可能であり、この2つの方法は ϕ 素性に関する共変性(covariance)という概念を導入することによって統合されることを主張する。このシステムにおいては、ある言語の語彙項目が持つ ϕ 素性の指定によって、一致か併合のどちらの方法がその言語における格付与に用いられるかが決定されることになる。語彙項目が ϕ 素性を持ち一致を示す英語のような言語とは異なり、語彙項目が ϕ 素性を持たない日本語においては、併合に基づいて格素性付値がなされることを提案する。

次に、併合に基づくメカニズムによって、日本語に見られる特異な格現象がどのように説明されるのかを示していく。日本語には、一致（探索子・目標）システムにおいて前提とされている探索子と目標との間の一対一の対応関係が破れていることを示す現象（主格目的語の存在、同一格の多重生起、および主格-属格交替等の格交替現象）や一致の作動に係る条件(activity condition)が成立していないことを示す現象（後置詞句等への格付与）が存在する。併合に基づく格素性付値と併合や相(phase)に関する理論との相互関係によって、これらの現象に対して原理的な説明が与えられることを示していく。

最後に、極小主義において格理論が持つ理論的意義、格理論と項構造に関する理論やテータ理論との関係などについての考察を行なう。

【講師紹介】

辻子 美保子（ずし・みほこ）

神奈川大学教授。Ph.D. 研究分野は、理論言語学、比較統辞論。研究業績は、『統辞構造論』（岩波文庫、2014年、共著）など。